

2017年度FDカンファレンス概要

※内容は変更になる可能性がありますので、ご承知おきください。

テーマ：「(先生じゃなくて) 学生ががんばる授業の作り方」

「良い授業」を考えると、内容や教材の吟味、教え方の検討など、ともすれば教員ばかりががんばってしまうものですが、学生ががんばってくれなければ教員の努力は水の泡です。学生が能動的に学ぶことに最も影響する、教員と学生の人間関係を土台に据え、学生はどのような人間であり、人間としてどう接するかを軸にして、学生のレベルやレディネス、学生が身を入れて学ぶためのしかけとテクニックなど教育の様々な側面をブレイクダウンし、確実にアプローチしていきたいと思えます。

全体プログラム

ALL-WS1：「ようこそ&アイスブレイキング」(平野吉直)

開会にあたり、身体を動かしてリラックスし、互いを知ることで、研修に楽しく参加していただく準備運動をします。

ALL-WS2：「研修の目的を設定する」(加藤善子)

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。信州大学の教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L：「学生をやる気にさせる作戦、その1」(中島登代子 常葉大学 健康科学研究科教授)

頑張りがきかない(すぐあきらめる?)とか、ここ一番で頑張れない(粘りが無い?)とか、やる気がない(もともと頑張る気がない?)というのは、各世代に評されるように思われます。近頃の若いもんは...というのは時代を超えて語られてきました。さて、そうは言っても何とかしなければ、というわけで、ちょっと違った視点(無意識)から考えての、作戦その1。

ALL-WS3：まとめとアンケート(加藤善子)

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかを振り返ります。評価を行った後、解散です。

FD研修(教養ゼミナール担当者研修):(A)

A1-L/WS：大学のアウトカム、私のアウトカム(加藤敏三)

大学での教育の視点は、「何を教えたか」から「学生が何を学んだか」に変わりつつあります。本学での授業アンケートも、授業改善アンケートから、学生に授業目標への到達度とその授業で得た達成感を聞くものになりました。さらに、「学位授与の方針」の見直し作業が今年度から始まります。このセッションでは、これら3点の共通点「アウトカム」という観点から、①[学生の努力]を引き出す②[先生方の努力]が③[大学全体のアウトカム]評価に直結する、という教育のあり方をご一緒に模索したいと思います。

A2-WS：ICTを授業に活用する(矢部正之)

大学教育における人材育成に関し、社会からはその質の確保が求められています。そこでは、主体的な学びなども求められています。単純に考えても、これらの要請に応えるためには、学生への関与の度合いを増し、側面から学習を支援することが必要になります。大学の現状を考えると、通常の方法でこれらに対応することは非常に困難なものがあります。その解決策のひとつとして、ICT(情報通信技術)の活用があります。ここでは、高等教育において、授業にどのようにICTが活用できるのかいくつかの事例を紹介するとともに、皆さんに、それぞれの実践の中で、どう利用できるかを検討していただきます。

A3-WS : 授業デザイン研修 (シラバス研修上級編) (加藤善子)

学生が能動的に参加する(ことになる)授業をつくってみましょう。講義型から双方向型まで、どのような形態でも学生が学べば、それはアクティブ・ラーニングです。学生の努力が正当に評価され、学生が自分の状態を把握できる評価構造から、教員が学生の理解度を毎回把握しながら進めていける授業の組み立てまで、シラバスを書くまでのアウトラインを、グループワーク形式で作っていきます。

新任教員 FD 研修 : (B)

B1-WS : シラバス研修基礎編 (古里由香里)

学生ががんばる授業の重要な要素として、シラバス作成過程が深く関係しています。学生が 15 週の予定を立てることができ計画的に学習に取り組むうえで、教員も学生も両者が授業期間中にわたって参照するようなシラバスを書くために必要な要素を絞り、実際にワークショップをとおしてシラバスを作っていきたいと思います。

B2-WS : 科研費申請書で『研究目的』と『研究計画・方法』をどう書くか (加藤敏三)

科研費申請書を審査する立場から言うと、申請が採択されるかどうかは始めの二つのセクションで決まっています。この二つのセクションで、審査員が「こういう申請書はいい」という書き方と、「こういう申請書は読みたくない」という書き方が明らかに存在します。このセッションでは、過去の科研費 FD で確認した基本事項 (1. 審査員は申請書を読みたくない、2. 審査員は近隣だが異分野の研究者である) を確認した上で、「研究目的」と「研究計画・方法」をどう書くかをご一緒に考えていきます。

B3-WS : 信大生の学習について (李敏)

「今時の大学生は勉強しない」という嘆きを近頃よく耳にします。はたして信州大学の学生は勉強に励んでいるほうなのか、それとも勉強に怠けているほうでしょうか。本セッションにおいては、「学習時間に関するアンケート 2016 年」をはじめとする各種調査の結果に基づき、信大生の授業外学習時間、信大生の学習実態をみたくうえで、学生が主体的に学ぶ方策について参加者をご一緒に考えていきます。

担当者 :

中島登代子 : 常葉大学 健康科学研究科臨床心理学専攻教授, 日本臨床心理身体運動学会理事長

平野吉直 : 信州大学高等教育研究センター センター長

加藤敏三 : 信州大学高等教育研究センター 副センター長

矢部正之 : 信州大学高等教育研究センター

加藤善子 : 信州大学高等教育研究センター

李敏 : 信州大学高等教育研究センター

古里由香里 : 信州大学高等教育研究センター

☆ 「カンファレンス」について :

「FD 研修」と「新任教員 FD 研修」を同時進行の「カンファレンス」形式(分科会形式)で開催します。参加者はメニューを選択できますので、様々な教職員と交流をしながら、それぞれのプログラムの中から各自の興味や必要に応じて参加することができます。対象は信州大学の全教職員および県内高等教育機関の教職員です。各学部 2~3 人(特に教養ゼミナール群授業担当者)の方と他大学の方々にご参加いただくことで、異分野ならびにアプローチ・手法の異なる教育に関する交流を通して新たな視点を得ることができるでしょう。

☆ 新任教員 FD 研修について :

4 月の新任教員研修のフォローアップ研修として実施します。対象は、信州大学に着任されたばかりの教員の方々だけではなく、着任 3 年以内の教職員の方々までと広がっています。本学で教育にあられる上で有用な情報等を得られる機会であり、同じ学部・他学部の先生方と交流を深め、互いに学び合う良い機会でもありますので、2017 年 4 月の新任教職員研修対象者のみなさまは原則としてご参加ください。